

共同運営部門：中央手術部

—関係部署—

中央手術室
麻酔科
外科系各科
腎臓内科
血液内科
臨床工学技士

—概要—

中央手術部は4階に手術室6室を有し、中央手術部運営委員会が管理、運営している。主な関係部署としては、中央手術室、麻酔科、手術を行う外科系各科、腎臓内科(シヤント関連の手術)、血液内科(骨髄採取)、臨床工学技士があげられ、場合によっては臨床検査技師、薬剤師、助産師、事務、通訳等の職種や、小児科、循環器内科などの医師とも協働している。2020年度は、中央手術部運営委員会委員長の小林麻酔科部長が中央手術室長を務めた。手術室看護師は、南 昌子看護師長、桑原深雪副看護師長、濱上文信副看護師長、中村英嗣副看護師長を含め30名からなり、予定、緊急手術の全てに対応している。

手術室は6室のうち5室を予定手術用とし、原則として1室は緊急手術用に空けている。当センターには、泉州広域母子医療センター、心臓センター、脳神経センター、脊椎センター、人工関節センターなどが存在し、緊急度の極めて高い緊急手術が頻繁に発生するため、このような措置をとっている。

2020年度の予定手術枠は、以下の通りであった。

手術枠	月		火		水		木		金	
	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM
1	外科		呼吸器外科		外科		整形外科		心外	
2	外科		口腔外科		外科		形成外科		産科	
3	整形外科		脳外科		泌尿器科		外科		形成外科(第1・3週) 泌尿器科(第2・4・5週) 外科(第1週) 泌尿器科(第2-5週)	
4	心臓血管外科		耳鼻科		外科・泌尿器科(第2週)		産科		心臓血管外科 外科 泌尿器科	
5	耳鼻咽喉科	産科	緊急	形成外科	耳鼻科	口腔外科 耳鼻科(第4週)	耳鼻科	救急科	腎内	
6	緊急		外科		緊急		緊急		緊急	

—実績—

2020年度の月別総手術件数および全身麻酔下手術件数を図1に示す。COVID-19の流行により、不要不急の手術を控えた期間があったため、手術件数は大幅に減少した。年間総手術件数は3,007件、麻酔科管理症例数は2,557件、全身麻酔下手術は2,214件であった(アンギオ室内の手術は含まず)。

2020年度の月別手術室利用率を図2に示す。年間の平

均手術室利用率は79.4%であった。

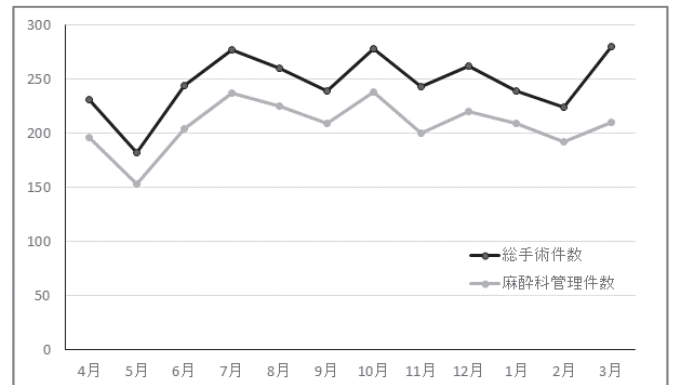


図1 2020年度手術実績

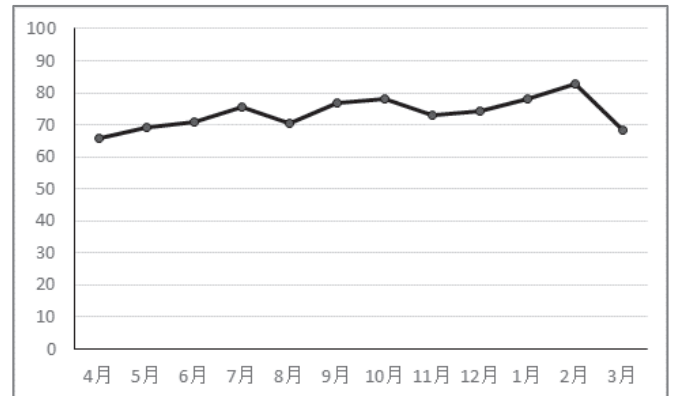


図2 2020年度手術室利用率(%)

—今年度の成果と反省点—

2020年1月頃から世界的に流行したCOVID-19は、当院麻酔科、手術室にも大きな影響を与えた。院内他部署とも連携し、手術患者のスクリーニング、COVID-19陽性患者への手術対応、手術室スタッフの個人防護具(PPE)、手術室の選定や清掃、麻酔器具、手術器具等の滅菌方法などについて議論検討し、手術室マニュアルを作成した。特に気道からの飛沫感染が危険であるとされたため、全身麻酔における気管挿管、抜管時に用いるアクリルボックスを制作した。実際には疑いを含め8症例をCOVID-19扱いとして取り扱ったが、医療従事者からの感染者を出さなかった。中でも2例の帝王切開は、感染症センターと母子医療センターが共存する当院ならではの症例であった。

—来年度への抱負—

2021年度もCOVID-19の流行は続くと予想される。COVID-19患者の手術と通常手術はいずれも重要であり、両者をバランスよく受け入れていく所存である。一方で手術室スタッフが疲弊しないよう、ワークライフバランスに注意しながら、運営していきたい。